

## ●●村、●●町 農業分野における地場産業成長プラン（記載例）

## 1. 地場産業の成長を支援する分野：農業分野

## (1) 該当する作物・品種等

フルーツトマト及びトマト加工品

## (2) 特定の理由

A県は、気候が温暖で日照時間及び年間降水量がともに全国第1位であるなど、太平洋に開かれた気候風土からもたらされる多彩な農産物がある。中でも、県内各地で生産・販売している高糖度トマトについては、B市「甘々の舞」や、C町「トマトMIX」等は「全国ミニトマト選手権」で銅賞を受賞するなど、高い評価を受けている。

しかしながら、本件の第一次産業就業者数は急激な現象が続いているほか、東京・大阪等人口が集中する大消費地から遠いうえ、山が多く海に迫っているため、大規模生産が出来る平野が少ないという地理的・地形的なハンディキャップを抱えている。

本県は加工産業の集積に乏しく、その多くは小規模であることから食品周辺の産業への波及等が十分でなく、県外での加工等による機会損失が生じているため、県内の一次産品等を生かした加工品を県内で、かつ可能な限り 県内で開発された機械設備によって製造する仕組みを構築し、第6次産業化を目指す。

## 2. 支援する地域及び推進の核となる事業者

## (1) 特に本プラン遂行の核となる地域及び推進の核となる事業者

D村、E町

## (2) 本プラン推進の核となる事業者

J A●●●、J A●●●△△支所ハウス園芸部会、NPO法人●●●会、(株)村の駅●●●、D村、E町における高糖度トマト出荷量7t/10a未満の生産者（重点支援農家）、D村商工会

## (3) 特定の理由

D村はトマト栽培が盛んな産地であり、特に高糖度トマトは県内有数の産地である。生産されている特産の「スイートトマト」については、J A出荷場にて集荷されるところ、生産地としては、D村と隣接しているE町の2地域があるため、産地全体としてD村で得られた知見やノウハウを連携し、波及させることが可能であり、農業集積が見込まれる地域として特定した。また、区域を所管するJ Aのほか、区域内の高糖度トマト生産者および加工場と販売所について、推進の核となる事業者として特定した。

## 3. 本プランの遂行に係る現状認識と目指す姿【目標】

## (1) 現状の整理

本県は加工産業の集積に乏しく、その多くは小規模であることから、第1次産業の強みを活かした食品加工への展開、食品周辺の産業への波及が十分でなく、さらに、一部の工程をわざわざ県外で加工せざるを得ないなど、機会損失も生じている。

(2) 目指すべき目標

区域内における農林水産就労者数について、現行75人を、2030年までに95人、2035年までに115人に拡大する。

区域内のスイートトマトの平均出荷額について、現行の670円を、2030年までに720円、2035年までに770円に増額する。

(3) 設定の根拠

今後想定される新たな投資（事業数）と1件あたりの想定付加価値創出額から積み上げを行った。

(4) 効果検証

本プランで掲げた目標について、毎年度フォローアップを実施し、国からの求めに応じて結果を報告する。

4. 勝ち筋の特定と定量的なインパクト【道筋】

(1) 基本戦略

県内の一次産品等を生かした加工品を、県内で、かつ可能な限り県内で開発された機械設備によって製造する仕組みを構築し、そこで生まれる付加価値を県内に留め、本県の強みである第一次産業が、第二次産業（食料品製造業など）や第三次産業（商業や観光産業など）につながり、波及効果を広げていくことで、地域経済の拡大を図る。

(2) 取組の具体像

.....

(3) 地域へのインパクト、目指すべき姿

.....

5. 取組に向けた課題と本村及び本町が行う取組【政策手段】

(1) 取組に向けた課題

.....

(2) 講じるべき政策パッケージ

①事業者に対する伴走支援体制の整備

具体的には、D村企画課内にトマト応援窓口を設置し、農業従事者または就業希望者からの相談に応じるほか、村のホームページにおいて、商工会の取組をご紹介します。

#### ②インフラ整備、産業用地の確保に向けた支援

畦畔除去による区画拡大、揚水ポンプ、農道、排水路の整備により農地耕作条件改善を図るほか、園芸団地の整備促進、集落営農の推進を図る一環として、次世代型ハウス等の参入企業等による施設整備を支援する。

#### ③集出荷場の機能強化と加工業の拡大

地域未来交付金等の活用により、参入企業によるミニトマト用の新たな選果ラインを導入や、予冷庫の拡張を支援する安定的な集出荷を目指す取組を支援する。

加えて、特定非営利活動法人「NPO法人●●会」による、規格外トマトを活用した加工業の拡大と直販所の充実を支援する。

#### ④ICT や AI, IOP などの先進技術を活用したスマート農業推進に向けた支援

画像解析技術を活用した、ビニールハウスにおける収穫時期の判定や、選果場における廃棄の判定を行う取組や、園芸施設内の環境制御装置のデータと JA の選果実績データを組み合わせ、スイートトマトの出荷量予測を行う取組など、生産者自身の技術指導にかかる負担軽減による労働生産性の向上、農業参加機会の創出に資する取組を支援する。